

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明正小学校

学校の教育目標

なかのよい子ども 健康な子ども よく考える子ども

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

<子どもが楽しくきちんと学べる授業>

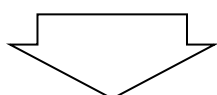
- ・互いに学び合い高め合う授業づくり ・体験的・問題解決的な学習
- ・教材・教具の工夫 ・年間指導計画の評価と修正 ・基礎・基本の徹底と定着
- ・指導法の工夫（チーム・ティーチング、少人数） ・講師、学習サポーターの有効的な活用

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	全国平均のほぼ同等か上回っている。4年は、「漢字の読み」「物語文の読み」「書くこと」の領域が課題である。5年は、文章や資料から必要な情報を取り出す力や、それを用いて解決する力が都の平均を下回っている。6年は、「漢字の書き」「読むこと」「話す・聞く」が課題である。	低学年の図書の時間に加え、読書の時間を意図的に確保する。理論的な書き方、構成の仕方を学ぶ活動の不足。漢字の書き取りの反復練習の時間を、家庭学習や朝学習の時間などを利用して確保する。
算数	4年は、「かけ算」「□を使った式」「棒グラフと表」が区平均を下回る。5年は、「関心・意欲・態度」「比較関連付けて読み取る力」が課題である。6年は、「小数の計算」「合同・立体」「図形」など、「数量や図形についての技能」に課題がある。 全体として、関心・意欲・態度が他の観点と比較して、低い。また、「数量関係」の「グラフ」の内容で、読み取りや比較などが課題となっている。	上位層の集団と下位層の小集団と、2極化の傾向が顕著になりつつある。他教科（社会・理科など）の学習時、グラフなどの読み取りを関連付ける。日常生活につながる算数的な活動がやや不足している。
社会	読み取る力や解決する力に関して得点をとれない児童が少なからずいる。4年は、先人の働きの領域、5年は、問題を読み取る力や解決する力、6年は、活用問題や記述で回答する問題に課題がある。	資料から読み取る時間の確保が十分でなかったり、問題解決型学習のための学習問題作りが行えていなかったりする。
理科	4年は、「身近な自然の観察」と「こん虫のからだのつくり」に課題がある。5年は、文章や資料から必要な情報を取り出す力や読み取る力が課題である。6年は、全国平均を下回り、中でも「魚のたんじょう」と「けんび鏡の使い方」に課題がある。	自然事象に関する体験が少ない。実際の観察を充実させ、さらに映像や図鑑を活用し、知識・理解を深めていく。栽培活動や飼育活動などを継続的に取り組んでいく。

体 育	握力に大きな課題がある。女子では全学年が、男子では3年と6年以外が区市町村の平均を下回る結果だった。鉄棒などの器械運動や、投げる力にも影響が出てくると思われる。	運動経験や運動量の個人差がある。また、休み時間の遊びは、固定化し偏りがあったり、児童数増加に伴い、力一杯体を動かすことが不十分である。体育授業における運動量確保が不十分である。投げる運動や器械運動領域が苦手だったり、授業で取り組むのに消極的だったりする。
-----	--	---

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	東京ベーシック・ドリル診断テストの学年正答率を、学年末に80%以上を目指す。読書活動を充実させて、読書量の増加を目指す。
②授業改善	学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、A B評価90%を目指す。
③教員の指導力	学校評価の自己評価において、学習指導の項目で、A B評価90%を目指す。
④家庭との連携	学習用具の準備や宿題の達成率を、各学級で学年末に90%以上を目指す。
⑤体力向上	なわとびやマラソン大会における、各種目の記録の向上を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	基礎・基本の定着を図ることを目的としている「明正タイム」の時間における、内容や方法を充実させる。
取組Ⅱ	東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用し、繰り返しによる学習の定着を図ったり、学習状況を個別に把握したりして、指導を充実させる。
取組Ⅲ	校内研究として取り組む生活科・理科の学習で、主体的・対話的で深い学びの学習を目指す。

②授業改善

取組Ⅰ	校内で互いに授業公開を図り、問題提示方法、発問、板書、練り上げ方法、ノート指導など、学校全体の授業力向上を目指す。
取組Ⅱ	校内研究を中心として、問題解決型学習の展開を踏まえた学習を共通理解し、各教科の指導に波及させる。
取組Ⅲ	既習事項、身に付けた基礎・基本を活用する場面や考えたことを表現し、学び合う場面を設けた授業を行う。

③教員の指導力

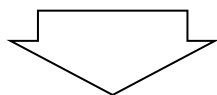
取組Ⅰ	児童の学習状況を座席シートなどによる記録を基にして授業評価をし、指導の改善を図る。
取組Ⅱ	管理職による授業参観を通して、経験年数や実態に応じた指導力の向上を目指す。

④家庭との連携

取組Ⅰ	保護者会や学年便り等で学習状況や学校での取組を伝え、発達段階に応じて家庭での学習の協力を依頼する。音読や自主学習ノートなどへの押印や記入などを通して保護者の関わりを増やし、理解と協力を得る。
取組Ⅱ	夏休みの期間を活用し、家庭の理解と協力を得て、基礎的・基本的な学力の定着を目指した夏季学習教室や、体験的な学習を中心としたサマースクールを実施する。

⑤体力向上

取組Ⅰ	「なわとび」「ペースランニング」は、全校の大会に向けて、期間を設けて集中して取り組みをする。実施前には、各自の目標をめあてカードに書かせ、事後には、振り返りをする。
取組Ⅱ	本校のマイスポーツである「なわとび大会」と「マラソン大会」の取組を公開し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起を継続して図る。
取組Ⅲ	体育朝会では、長縄の記録会を毎学期設定し、学級ごとに記録向上を目指して練習に励む。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none">・一年間を通して「明正タイム」を活用した漢字や計算練習や、算数科の習熟度別少人数指導に取り組み、その結果、各種学力調査等では概ね良好な状態である。・児童が主体的に学びに取り組めるような学習展開にしたことで、話し合い活動や表現活動が充実した。	<ul style="list-style-type: none">・全体的な状況は良好だが、低位層の児童の学力を向上させることが課題である。個別指導の時間を確保したり、習熟度別少人数指導のグループ分けの工夫をしたりする等の取り組みが必要である。・児童の学びに向かう力である課題発見力、課題解決力、意欲・関心等を高める取り組みが必要である。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none">・学校評価（児童アンケート）における授業に関する項目でA B評価が95%以上であり、良好な状態と言える。・平成30・令和元年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受け、理科・生活科の授業づくりを通して、問題解決型の授業展開を実施した。・校内研究を通して授業改善を図り、問題提示、発問、板書、ノート指導、問題解決の方法等の工夫を行った。	<ul style="list-style-type: none">・児童の学習状況を適切に評価し、それを基にした授業改善を図るためにも児童に身に付けさせたい資質・能力の評価のあり方について理解を深める必要がある。・理科・生活科だけでなく、各教科において標準的な指導方法を確立し、教員が共通理解していく必要がある。（授業スタンダードの確立）
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none">・学校評価（教員アンケート）における学習指導に関する5項目でA B評価は、2項目が100%、3項目が85%以上であり、良好な状態と言える。・児童の学習状況を単元ごとに記録し、習熟度別のグループ編成や個別指導等に生かすことができたことで、授業中にきめ細かい指導を実施することができた。・管理職、教育センター講師による授業観察やO J Tにより若手教員を中心とした実践的な研修が実施できた。	<ul style="list-style-type: none">・PDCAサイクルによる授業改善ができるようにするため、教師が児童の学習状況を適切に見極め、リフレクションを通して指導の改善を図ることで教員の授業力を高める。・授業観察や研修の前に、教員が教材研究や指導案検討をしたり、研修の成果を実際の授業に生かすように振り返ったりする時間の確保が課題である。・研究授業に限らず日常の授業の相互参観を通して、児童理解・授業力向上の機会を生み出す時間と雰囲気を整えることが望まれる。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none">・保護者会等で学習の状況を伝え、家庭学習の協力を要請することができ、協力を得られている。・家庭に夏季休業中の学習教室や個人面談期間の補習の実施について、意図と計画を説明し、児童参加の協力を得られた。	<ul style="list-style-type: none">・補習の実施、家庭学習の取組等について、多くの家庭から理解と協力を得られているが、一部に意図が十分に伝わっていない家庭がある。・学習の評価について、通知表の評価項目の文言が難しく、十分に伝わっていないことがあり、課題である。

<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none">・マイスクールスポーツである「なわとび」と「ペースランニング」については、毎週のなわとびタイムにおいてめあてをもってなわとびの練習に励む姿が見られるようになった。また、競技会を設定し、児童の意欲を大いに喚起した。・総合的な学習の時間や生活科で異年齢交流や学び合いの活動が充実した。	<ul style="list-style-type: none">・握力について依然として課題である。低学年用のうんていを休み時間に使用できるようにしたが、鉄棒等の器械運動についての取組も強化する必要がある。・毎月の朝読書の時間を設定したことで高学年の図書室の利用率が少しずつ高くなってきたが、まだ課題がみられる。読書活動の充実を図る必要がある。
--------------	---	---